

第71回
関西社会学会大会
プログラム

第1日 2020年10月10日(土)

第2日 2020年10月11日(日)

開催校

龍谷大学

<オンライン開催>

オンライン大会開催のガイドライン（9月7日暫定版）

（1）概要

- 本オンライン大会は、2020年10月10日（土曜日）～10月11日（日曜日）に開催します。現在、大会特設ページを準備中です。
- 本オンライン大会に参加できるのは大会参加費を納入した会員および非会員です。
- 本オンライン大会は、ウェブ会議システム Zoom を活用した「リアルタイム方式」と、特設ページ掲示板を活用した「オンデマンド方式」で実施します。
- 参加登録された方は、オンライン開催中の画面の録画・録音・スクリーンショット撮影をおこなわないことを承諾したものとみなします。
- 「リアルタイム方式」(Zoom) の一般研究報告 (I・II) および「自著を語る～MY FIRST BOOK～」(I・II) は、部会ごとに設置したオンライン会議室でおこないます。発表者はスライドやレジュメなどの資料を画面共有し、発表をおこないます。その後、聴講者とチャットや音声で質疑応答をおこないます。例年の「一般研究報告 A」はこの「リアルタイム方式」で実施します。
- ログイン情報や Zoom による部会のアクセス情報を他の方に伝えることは、拡散によって不正参加や「あらし」などが起きることを防ぐために、決してなさないでください。
- 「オンデマンド方式」の一般研究報告 III では、発表者は大会特設ページ（およびオンラインストレージ）に発表資料を掲載します。参加者は、所定期間内に特設ページの掲示板にコメントを記入し、発表者と質疑応答をおこないます。例年のポスターセッション（一般研究報告 B）はこの「オンデマンド方式」で実施します。また、「一般研究報告 A」の申込者のうち、日程等の変更のため「リアルタイム方式」での発表が難しい方も「オンデマンド方式」で報告をおこないます（希望者のみ）。
- オンライン開催にあたり、通信環境や通信機器等に不具合等が生じても十分なサポートができない可能性があります。あらかじめご容赦ください。オンライン発表に際して万が一トラブル等が生じた場合も、関西社会学会はその責任を負いません。
- 発表者・司会者向けに詳しいマニュアルを作成し、後日ご連絡します。
- このガイドライン（暫定版）は2020年9月7日段階のもので、準備状況等により、一部内容が変更されることがあります。変更に関しては学会ホームページおよびメールで周知します。

（2）参加者（聴講者）のガイドライン

- 大会参加費は2000円（会員・非会員共通）です。現在、大会参加申込専用サイトを準備中です。10月5日（月曜日）までは銀行振込またはクレジットカードで参加費を納入いただけるようにする予定です。10月6日（火曜日）以降はクレジットカードのみとなります。詳細は後日ご連絡します。
- 利用する端末に事前に Zoom のアプリをインストールしておいてください。Zoom のアカウント作成は不要です。

【参考】 Zoom 公式サイト <https://zoom.us/>

ヘルプセンター <https://support.zoom.us/hc/ja>

ミーティングテストに参加 <https://zoom.us/test>

- 「リアルタイム方式」(Zoom) による部会（一般研究報告 I・II / 自著を語る I・II）、総会、招待講演、シンポジウムは、開始時刻の10分前から参加者の入室を開始します。
- Zoom による部会に参加される場合、マイクは必ず「ミュート」にしてください。また、名前はフルネーム（所属先）で表記ください。

「名前の変更」をする方法

- ①画面下のメニューバーの「参加者」をクリック
 - ②自分の名前上にカーソルを動かして「詳細」をクリック
 - ③「名前の変更」を選択
 - ④「フルネーム（所属大学）」などの表記に変更
- 「リアルタイム方式」(Zoom)の部会の質疑応答は、手を挙げる機能、チャット、音声でおこないます。具体的方法については司会者の指示に従ってください。
 - 「オンデマンド方式」の一般研究報告Ⅲの資料は、大会開始から終了時まで閲覧できますが、掲示板へのコメント書き込みは大会2日目の12時00分に締め切ります。時間等の制約のため、すべてのコメントに発表者からリプライがなされるわけではありませんので、ご了承ください。また、人権侵害等の問題のあるコメントは研究活動委員会の判断で削除される場合がありますので、ご注意ください。

(3)「リアルタイム方式」(Zoom)による発表者のガイドライン

- 大会当日は、できるかぎり静かでネットワークが安定している環境でご参加ください。当日使用しないアプリは終了しておくことを推奨します。
- Zoomによる一般研究報告(I・II)および「自著を語る～MY FIRST BOOK～」(I・II)では、司会者、Zoom操作担当、モニター担当の3名を置きます。司会者は部会の進行を担当します。Zoomの操作は主に操作担当がおこないます。モニター担当は、部会を見守り、トラブルがあったときに対応します。
- 発表者はZoomの「画面共有」機能を使って資料を提示し、報告をおこないます。報告時間は25分・質疑応答は5分です。
- 発表者が当日配布したい資料がある場合は、所定の期日までに資料を研究活動委員会に送付してください。期日以降に作成された資料をオンラインストレージに各自でアップロードすることも可能です。資料に関するスケジュールおよびマニュアルは後日お伝えします。
- 部会開始時刻の30分前(1日目午後は13時、2日目午前は9時)から、司会者・報告者・Zoom操作担当は事前打ち合わせをおこないます。打ち合わせは部会開始の10分前までに終了します。
- 大会当日は、万一の場合に連絡が取れるように、携帯電話をお手元にご用意いただくよう、お願いいたします。緊急時の連絡方法は後日お知らせします。

(4)「オンデマンド方式」による発表者のガイドライン

- 発表者は所定の期日までに資料を研究活動委員会に提出してください。資料は大会特設ページに掲載されます。また期日以降に作成された資料(追加・修正)を各自がオンラインストレージにアップロードすることも可能です。資料に関するスケジュールおよびマニュアルは後日お知らせします。
- 資料は大会開始日から終了日まで公開される予定です。
- 参加者は大会2日目の12時まで掲示板にコメントを書きこむことができます。なお、時間的な制約もありますので、コメントに対する発表者からのリプライは任意とします。
- オンデマンド方式の部会にはファシリテーターが配置されます。ファシリテーターは質疑応答が有意義なものになるように関与したり、人権侵害等の問題のあるコメントを見つけた場合に本部に報告する役割を担います。

(5)オンライン発表における著作権について

- オンラインの発表における報告資料の著作権の扱いには十分ご注意ください。以下のサイトなどに情報

がありますので、ご参照ください。

「オンライン授業・オンライン学会における著作物の利用について」(澁川幸加)

<https://redbuller.hatenablog.com/entry/2020/04/18/015830>

「日本文化人類学会 オンライン学会発表におけるコンテンツガイドライン」

<https://jasca54.jimdofree.com/zoom%E5%88%A9%E7%94%A8%E3%81%AE%E6%89%8B%E5%BC%95%E3%81%8D/%E3%82%AA%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%B3%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E7%99%BA%E8%A1%A8%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%86%E3%83%B3%E3%83%84%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%B3/>

(6) 報告要旨集について

- 報告要旨集は、大会特設ページおよびホームページから pdf データをダウンロードしてご覧ください。
- 今年度は、紙媒体の要旨集の配布はおこないませんが、冊子を希望される方は 9 月 30 日までに研究活動委員会にご連絡いただければ、有料（1 冊 1000 円：送料込）にて作成・郵送します。

* 報告要旨集（有料冊子）の郵送を希望される方

送付先・氏名を明記のうえ、研究活動委員会までメールにてお申し込みください。

メールアドレス： 2020kansya <アットマーク> gmail.com

（メールを送る場合は、アットマークを@にしてください）

(7) 緊急時の連絡について

- 大会の直前に病気や事故等やむを得ない事情で、発表をキャンセルする場合は、以下の研究活動委員会宛のアドレスにメールするか、あるいは、発表者・司会者向けに別途お知らせする緊急連絡用電話番号に連絡してください。 メールアドレス： 2020kansya <アットマーク> gmail.com

（メールを送る場合は、アットマークを@にしてください）

■謝辞

「オンライン大会開催のガイドライン」の作成にさいして、すでに開催された学会大会のウェブサイトや資料などを参考にさせていただきました。記して感謝いたします。

「学会全国大会のオンラインでの試行開催の運用メモ」(日本教育工学会 2020 年度春季大会実行委員会 (信州大学))

<https://cril-shinshu-u.info/archives/1473>

「オンライン学会向け Zoom マニュアルの公開」(澁川幸加)

<https://redbuller.hatenablog.com/entry/2020/03/28/022605>

「日本文化人類学会第 54 回研究大会オンライン開催ポータル」

<https://jasca54.jimdofree.com/>

「日本社会学理論学会第 15 回大会参加者マニュアル (8 月 25 日版)」

<http://sst-j.com/>

第1日 10月10日(土)

研究報告 I 10月10日 土曜日午後 13:30~16:00

1. 理論 司会：永谷健（三重大学）
1. ジョージ・ミードとドイツ観念論
—普遍、世界、社会的相互作用— 鎌田大資 梶山女学園大学
2. アルヴァックス『記憶の社会的枠組み』再考
—前半部4章を中心に— 金瑛 関西大学
2. 家族 司会：平井晶子（神戸大学）
1. 持ち家居住規定要因のジェンダー間比較
—2005年SSM調査データを用いた検討— 佐藤慧 京都大学
2. 夫婦の情緒性に関する近代家族論の再考
—フェミニズム理論との接続に着目して— 岡田玖美子 大阪大学
3. 見合い相手を紹介する技量とジェンダー
—仲人の役割の検討を通して— 田中久美子 福岡工業大学
3. 社会福祉・医療 司会：渡邊拓也（大谷大学）
1. 出産の変遷と医療者のジレンマを越えて
—周産期医療を構想した医師の語りから— 岡いくよ 畿央大学
／関西学院大学大学院研究員
2. 伝統医学を脱構築するための考察
—病因観「疝の虫」を軸として— 岡田裕子 京都大学
3. 被害の経験を伝えるとはどういうことか
—薬害アーカイブズ調査をもとに— 藤吉圭二 追手門学院大学
4. 都市・現代文化 司会：永井純一（関西国際大学）
1. マンガ作品を舞台表現に翻案する
—舞台出演者への聞き取り調査に基づく考察— 秦美香子 花園大学
2. 「J-POP」のトレンド1960-2019
—構造的トピックモデルによる推定— 小牧和哉 大阪大学
3. 路上ライブにおける規制と容認
—大阪梅田エリアにおける路上ライブ聴衆の分析から— 多田駆 関西学院大学
4. 「ライフスタイルまちづくり」という視角
—脱消費的ライフスタイルが拓くまちづくり— 松村淳 関西学院大学
5. 産業・労働 司会：佐藤洋子（高知大学）
1. 看護資格取得者のキャリア
—隣接分野としての治験産業における就業者を中心に— 池田梨恵子 同志社大学
2. 近代化とイスラーム化の狭間にある新中産階級ムスリム女性
—マレーシアの私立大学教員の労働と家事をめぐる意識— 安達智史 近畿大学
3. 日本の産業社会学における戦後から現代に至るホワイトカラー研究経緯 藤本昌代 同志社大学

自著を語る—MY FIRST BOOK (I)

司会：工藤保則（龍谷大学）

1. 『家族はなぜ介護してしまうのか——認知症の社会学』（世界思想社 2019年）
木下衆 慶應義塾大学
2. 『コモンズとしての都市祭礼——長浜曳山祭の都市社会学』（新曜社 2019年）
武田俊輔 法政大学
3. 『イクメンじゃない「父親の子育て」——現代日本における父親の男らしさと〈ケアとしての子育て〉』（晃洋書房 2018年）
巽真理子 大阪府立大学
4. 『なぜ中国企業は人材の流出をプラスに変えられるのか』（勁草書房 2019年）
中村圭 同志社大学
／成城大学

◆総会 16:15～17:00

◆招待講演&トークセッション 17:15～19:15

テーマ「コロナ時代の日本を考える」

講演者 内田樹（神戸女学院大学名誉教授、京都精華大学客員教授、凱風館館長）

対話者 伊藤公雄（京都産業大学） 司会 伊地知紀子（大阪市立大学）

第2日 10月11日（日）

研究報告Ⅱ 10月11日 日曜日午前 9:30～12:00

6. 家族・福祉・エスニシティ

司会：森田次朗（中京大学）

1. 海峡都市・下関市における在日コリアンの形成と展開過程
魯ゼウオン 天理大学
 2. 社会運動によるアイデンティティの変容と政治参加
—マレーシア華人のブルセ運動参加を事例に—
林蕙穎 同志社大学
- 共同報告<社会的養護における支援と制限の社会学—児童福祉の様々な現場で生じるジレンマ—>
3. 母子生活支援施設における生活のきまりの一考察
—介入と放任をめぐる議論から—
平安名萌恵 立命館大学
 4. 児童養護施設内での「規則」をめぐる折衝と葛藤
—生活の中で生成される「規則」と相互行為から—
三品拓人 大阪大学

7. 文化・宗教

司会：吉田純（京都大学）

1. 現代における葬送儀礼の意味づけ
—記憶論からの検討—
磯部美紀 大谷大学
2. 神輿渡御と「価値をめぐる闘争」
—祭礼研究における解体論的視角を超えて—
三隅貴史 関西学院大学
3. 過疎化する村落でなぜ芸能を創出するのか
—新潟県佐渡市の関祭を事例として—
土取俊輝 神戸大学

8. 社会心理・社会意識

司会：山田陽子（追手門学院大学）

1. イデオロギー的立場と外交政策に対する態度
—日本の有権者の世代差—
池田裕 京都大学
2. 経済悪化はなぜナショナル・アイデンティティを高めるのか？
○齋藤僚介 日本学術振興会

- サーベイ実験を用いた ICM の検証— 尾藤央延 大阪大学
3. 「自己責任論」に加担する当事者
—解釈困難な語りを手掛かりに他者を理解する— 稲葉渉太 京都大学

9. シンボルとコミュニケーション

司会：阿部潔（関西学院大学）

1. インターネット・コミュニティにおける社会秩序の形成
—日常と非日常の往還としてのスマートモブズ現象— 崔昌幸 京都大学
2. 情報環境（アーキテクチャ）による物理とコミュニケーションの融合の時代の考察
稲葉年計 東京都立大学
3. 共生概念の二類型
—有用性による共生・有意味性による共生— 八木景之 大阪大学

10. 社会史・歴史社会学

司会：山本昭宏（神戸市外国語大学）

1. ポスト占領期のラジオと「戦争の語り」
—放送作家長沖一のラジオ台本から— 後藤美緒 日本大学
2. 在郷軍人団体の国際交流と隊友会海外研修事業の動向
—機関紙『隊友』紙面分析から— 津田壮章 京都大学
3. 平和式典におけることばの計量テキスト分析
—ヒロシマ・ナガサキからみた戦後の「平和」意識の変容— 渡壁晃 関西学院大学

11. 地域と外国人住民

司会：魁生由美子（愛媛大学）

共同報告＜2019年度「兵庫県豊岡市の外国人住民に関する調査研究」から＞

1. 地方の諸産業と外国人技能実習生
—兵庫県豊岡市の事例から— 梅村麦生 日本大学
2. 地方における非定住高学歴外国人女性
—兵庫県豊岡市を事例として— 徳宮俊貴 神戸大学
3. 兵庫県豊岡市における日系フィリピン人の生活世界
—国際結婚者との比較から— 齊藤優 神戸大学
4. 兵庫県豊岡市における中国人居住者の家族形成
—移住経緯と家族関係に注目して— 藤岡達磨 関西学院大学

自著を語る—MY FIRST BOOK（Ⅱ）

司会：岡崎宏樹（神戸学院大学）

1. 『ポスト3・11のリスク社会学——原発事故と放射線リスクはどのように語られたのか』
（ナカニシヤ出版 2019年） 井口暁 追手門学院大学
2. 『ネットカフェの社会学——日本の個別性をアジアから開く』（慶應義塾大学出版会 2019年）
平田知久 群馬大学
3. 『リズム（身体感覚）からの逃走——音楽の現象学的・歴史社会学的研究』（晃洋書房 2018年）
寺前典子 寺前診療所

オンデマンド報告

*参加者は大会2日目の12時まで掲示板にコメントを書きこむことができます。

ファシリテーター：金益見（神戸学院大学）・落合恵美子（京都大学）・石原俊（明治学院大学）

◆一般研究報告Ⅲ（オンデマンド報告）

1. 外国人生徒の「居場所」再考

- マージナルという居場所— 宮澤理恵 島根大学
- 2. 社会学的システム理論にみられる数理的構造
—社会学的時間概念の公理論化(2)— 高橋顕也 立命館大学
- 3. 社会的分業と貨幣
—17-18世紀大坂中央市場と後背市場の事例— 碓井崧 金沢大学
- 4. 公的データでみる子育て世帯の家事・育児時間
—「社会生活基本調査」政府統計匿名データによる分析— 平井太規 立教大学
- 5. すれちがう「表現の自由」
—インドネシアの音楽ライブ空間における権力作用— 金悠進 京都大学
- 6. 〈家庭的〉であることとルールや日課の有無
—社会的養護の実践に携わる人びとの語りから— (共同報告〈社会的養護における支援と制限の社会学—児童福祉の様々な現場で生じるジレンマ—) 野崎祐人 京都大学
- 7. 「心理学化する社会」において排除される自己物語について 津田翔太郎 神戸大学

◆一般研究報告(その他)

*以下の報告に関しては、大会日程変更のため、ご都合がつかず、Zoomによる発表はありません。報告内容については要旨をご覧ください。

- 1. 「在日コリアン」社会における「民族的アイデンティティ」と「伝統芸能舞踊」に関する一考察
—京都・東九条「マダン」祭りの事例から— 徐希寧 立命館大学
- 2. 都市自治体における地域への分権と自治
—参加と協働の実質化・実体化に向けて— 栄沢直子 関西大学
- 3. 過疎集落の持続性と農村女性の地位向上の契機
—起業論を超えて— 坂本真司 大手前大学
- 4. 郵送調査における回収率向上のための実践的工夫 松川尚子 関西学院大学

◆シンポジウム

13:00~16:00

シンポジウム「2010年代の政治と権力——何が破壊され、何が生まれたのか？」

司会 奥村隆(関西学院大学)
鯨坂学(同志社大学)

報告者および報告タイトル

- 1. 「鉄の檻」から「脆弱な殻」へ
—リベラルが官僚制を擁護するという状況とそこにおける権力について— 野口雅弘(成蹊大学)
- 2. 2010年代の政治をめぐる言説空間
—イデオロギーの変容と政治コミュニケーション— 倉橋耕平(立命館大学)
- 3. 大都市の草の根保守は変わったのか
—「維新」の都市政治社会学— 丸山真央(滋賀県立大学)
- 4. 2010年代の市民運動を振り返って
—「実感」から出発する政治参加とデモクラシー— 西郷南海子(京都大学大学院)